

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

平成28年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2017年4月18日

社会福祉法人森友会
えがおの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 - . 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	えがおの森保育園			
事業所連絡先	〒	185-0013		
	所在地	東京都国分寺市西恋ヶ窪4丁目17-18		
	TEL	042-312-4833		
事業所代表者氏名	遠藤 智子			
契約日	2016年 8月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2016年 8月 29日			
利用者調査結果報告日	2016年 11月 15日			
自己評価の調査票配布日	2016年 8月 19日			
自己評価結果報告日	2016年 11月 15日			
訪問調査日	2016年 11月 21日			
評価合議日	2016年 11月 21日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたっては、開始時に調査の趣旨などを記した依頼状の配付やポスター掲示などで理解促進を図るとともに、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付するほか、必要に応じ提出期限を延長するなどして回収率向上に努めた。 事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもが今を幸せに生き、すべての子どもに明日を生きる力を育てる。 ・すべての子どもが、自分の流れで園生活を楽しむ。 ・すべての子どもが、無理なく自立への道を進む。 ・すべての子どもが、協力・協働の喜びを知る。 ・すべての子どもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <p>「すべての子どもの最善の利益」を目指すためには何よりも、子ども一人一人の存在そのものを愛し、子どもの人格を尊重出来る人材でなければならない。また保育の仕事は一人でやれる仕事ではなく、利用者のみならず、職員間の思いを理解するのが大事である。相手と協力して仕事をすることに喜びをもち、相手から学ぶことのできる人、相手に 思いやりを持って人を求めている。</p> <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育所の職員は常に、全ての立ち振る舞いや言動が子どもの手本である事を意識し、日々の保育にあたって欲しい。また「子どもの命を預かる」ことを常に実感し、専門知識を学び現状に満足せず質の高さを追求しなければならない。明日の社会を担う人間を育てる大事な仕事であることの自覚と誇りを持ち施設や利用者と共に成長して欲しい。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯78(在籍児童数88)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数

78

共通評価項目による調査対象者数

78

共通評価項目による調査の有効回答者数

57

利用者総数に対する回答者割合(%)

73.1

利用者調査全体のコメント

総合的な園に対する満足度は「大変満足」31.6%・「満足」49.1%の計80.7%で、設問別では「食事」「急な残業等への配慮」「子どもの気持ちを尊重した対応」など全16問中6問で80~90%台の高い支持を得ており、「戸外活動」のみ50%を下回っている。
自由意見では「子どもたちが自らの意思で行動し選択していけること、誰かに言われて行動するのではなく自ら選び考えていけることがとてもよく、だからと言って放置するのではなく、きちんと子どものことを見守ってくれていることが、保育者からの言葉や毎月のノートからわかる」「異年齢と同じ部屋で過ごす中で、年下の子に優しく接する姿や年上の子に憧れる姿があり、子どもたちが互いによい影響を与え合える環境であると感じる」「身体を動かすことを日常的に保育に採り入れ、子どもたちのストレス発散になり、活動的な心を育て、造形活動も創造力・造形力の成長につながり、季節ごとの絵本の設置や花を日常的に置いていることも感性を育てていると思う」などの声が寄せられている。
さらなる向上を望む意見としては戸外活動の充実など日常の保育、行事や職員体制、安全衛生や保護者への情報発信に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	49	6	1	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が10.7%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は6件で、「その月齢に合わせてくれている」「配慮はしてくれている」のほか、食材の産地、メニューの内容などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	23	16	12	6
「はい」が45.1%、「どちらともいえない」が31.4%、「いいえ」が23.5%となっている。 自由意見は17件で、「今はいいと思う」「園庭でも新しい玩具等で子どもが飽きないよう工夫されているようだ」などのほか、戸外活動のさらなる充実を望む声が多数寄せられている。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	43	3	0	11
「はい」が93.5%、「どちらともいえない」が6.5%となっている。 自由意見は、「もともと延長だったが、さらに急にお迎えが遅くなった時、電話をすると嫌な対応一つせず、『お気をつけて』や『焦らなくても大丈夫ですよ』等と温かい言葉をかけてくれ、ほっとする」の1件があった。				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	31	18	7	1
「はい」が55.4%、「どちらともいえない」が32.1%、「いいえ」が12.5%となっている。 自由意見は9件で、「本当にいろいろと気遣いをしてくれており、お迎えの時、傷もない程度のことでも細かく伝えてくれる」のほか、保育中の安全管理や外部侵入対策、設備面について、気になる点や要望が挙げられている。				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	46	9	2	0
「はい」が80.7%、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が3.5%となっている。 自由意見は7件で、「早めに教えてくれ、予備日的なものを設定してくれさすがである」「行けない人のために予備日を設定してあることがありがたい」「全家庭対象の行事については配慮されている」のほか、行事の日程等における各家庭の負担や就労等について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	43	9	5	0
「はい」が75.4%、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が8.8%となっている。 自由意見は12件で、「いつも親身になってくれる」「帰りにいつも園の様子を伝えてくれている」「子どもも先生たちのことが大好きなので、日中もよくしてくれていると感じる」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告、コミュニケーション機会の設定などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
7. 職員は保護者の考えを聞く姿勢があるか	42	10	3	2
「はい」が76.4%、「どちらともいえない」が18.2%、「いいえ」が5.5%となっている。 自由意見は10件で、「どの先生もしっかりと聞いてくれ、わからないことだとしても後日しっかりと対応してくれる」「忙しい時間帯以外は、できるだけ子どもの話をしてくれ、聞いてくれる姿勢が伝わってくるのでとてもありがたい」「気になることがあり相談をした時に、すぐに対応してくれうれしかった」などのほか、職員の傾聴姿勢や相談等への対応、日常のコミュニケーション機会の設定などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	43	12	2	0
「はい」が75.4%、「どちらともいえない」が21.1%、「いいえ」が3.5%となっている。 自由意見は7件で、「いつもお迎えに行っても、いつも誰かしら掃除をしている姿が見られる」のほか、各室内の清掃・整理整頓や衛生管理などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。				
9. 職員の接遇・態度は適切か	44	10	3	0
「はい」が77.2%、「どちらともいえない」が17.5%、「いいえ」が5.3%となっている。 自由意見は8件で、「子どもの言葉を聞いていると、先生達が丁寧に話してくれていることがわかる」「子どもが喜びそうなかわいいTシャツや靴下は素敵である」のほか、職員の服装・身だしなみや接遇マナー、子どもへの接し方について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	47	6	4	0
「はい」が82.5%、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が7.0%となっている。 自由意見は11件で、「入園当初は正直不安だったが、今はとても信頼している」「何かあればすぐに連絡をもらえるのでありがたい」「柔軟に対応してくれ感謝している」などのほか、ケガや体調急変等の把握・対応、保護者への報告・連絡などについて、さらなる配慮を望む声も寄せられている。				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	30	10	2	15
「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が23.8%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見は4件で、「中立な立場で対応してくれていると思う」「直面したことがない」「年齢的にはまだあまりないようなので不明である」のほか、子ども間のいさかい等への対応に関する保護者への情報提供についての意見もあった。				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	49	8	0	0
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が14.0%となっている。 自由意見は3件で、「子どもが友達を叩いてしまった時などは、まずは落ち着かせて何が嫌だったのかと子どもの言い分を聞いて対処してくれている」「集団ではなく、個々をより大切にしているようなので、一人ひとり大切にされている感じがする」のほか、子どもの気持ちを大切にされた対応について、さらなる配慮を望む声もあった。				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	41	3	1	12
「はい」が91.1%、「どちらともいえない」が6.7%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見は3件で、「今時、守って当然だと思う」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声が見られる。				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	37	16	4	0
「はい」が64.9%、「どちらともいえない」が28.1%、「いいえ」が7.0%となっている。 自由意見は6件で、子どもの様子や保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	32	17	3	5
「はい」が61.5%、「どちらともいえない」が32.7%、「いいえ」が5.8%となっている。 自由意見は6件で、「ノートに書いたことはほとんどその日のうちに対応していただいている」「不満や要望はない」のほか、不満・要望等に対する傾聴姿勢、柔軟な対応などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。				
16. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	18	5	9	25
「はい」が56.3%、「どちらともいえない」が15.6%、「いいえ」が28.1%となっている。 自由意見は「わかりやすく伝えてくれたか、と言われるとよくわからない」の1件があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1~5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
		○非該当
		○非該当
		○非該当
		○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
		○非該当
		○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
		○非該当
		○非該当
		○非該当
	カテゴリ1の講評	
	<p>法人共通の保育の理念・目標などが、さまざまな機会に保護者・職員に伝えられている</p> <p>保育理念「すべての子どもの最善の利益のために」とこれに連なる保育目標、基軸とする「養める保育」をホームページに掲げ、保護者にはパンフレットや「入園のしおり」への掲載と見学・入園時の説明のほか、毎月の園便りにつづられる園長の所感や日々の子どもたちのエピソードにも、これらが意識されている。職員に対しては法人共通の「職員の心得マニュアル」に具体的な説明・想定する保育のイメージ等とともに記載し、入職時の研修の際に周知が図られるほか、日常の会議等での話し合いや園長からの指導によってその実践が促されている。</p> <p>組織的な研鑽と課題解決による保育の質の向上と保護者との緊密な連携に取り組んでいる</p> <p>上記の「職員の心得マニュアル」中の職務分担表に園長・副園長の職責が示されており、これを踏まえた組織運営がなされている。各リーダーによる実践の観点に即した現場への指導とともに、職員同士での自発的な話し合いを通じた相互研鑽を大切にし、乳児・幼児の各「フロア会議」を中心とした現場の気づきの集約によって、環境・援助の両面で保育の質を恒常的に充実させることに取り組んでいる。また保護者に対しては上記の園便りを通じた発信のほか、毎日の意思疎通を通じた緊密な連携を通じ、信頼関係と相互協力の促進に努めている。</p> <p>重要案件の検討・決定と各種情報の伝達の手順や仕組みが整えられている</p> <p>園単位での重要案件の検討は、毎月の常勤職員による職員会議や原則月2回程度の乳・幼児各フロア会議のほか、緊急性に応じ経営層の協議や毎朝のミーティング(以下「MT」)で行っている。これらの欠席者にはそれぞれの記録の閲覧などによって決定事項等を伝え、保護者には書面の配付・掲示、送迎時や面談等での個別の伝達、今年度導入した連絡アプリの活用など、案件によって通知方法を選択し、確実な理解が得られるようにしている。法人レベルの検討は毎月の都内各園合同の園長会、法人の理事会や九州各園を含めた全園長会においてなされている。</p>	

カテゴリ-2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		評点(○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
○あり ●なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>職員が守るべき社会人・保育者としての倫理・規範をさまざまな取組で啓発している</p> <p>法人共通の「よき保育者になるために」に笑顔や積極性の大切さ、接遇や服装・身だしなみ、個人情報保護や人権への配慮などを明記し、入職時の研修で教育を行うとともに、「職員の心得マニュアル」にもこれらに関連する各種規範・倫理、具体的なOK/NG用語例等を定めている。また園独自に職員としての規律・規範をまとめた書面を作成し、法人の目指す「蓄める保育」の実践において求められる心得・態度を具体的に示すほか、「保育振り返り表」による現場での挙措動作や接遇などの振り返り、会議等での園長からの随時の指導もなされている。</p> <p>地域に対し、情報の発信や園として可能な専門機能の提供を行っている</p> <p>法人のホームページと国分寺市の各種媒体を通じた情報の発信、地域の自治会の協力による周辺各世帯への園便りの配布など、透明性の確保に取り組んでおり、夏祭りなどの行事の際には近隣住民を招待している。地域への機能・専門性の提供は、今年度は組織の体制上の制約などから見学者への育児相談対応程度にとどまっている。人的・設備的な制約の中で、今後の園として実施可能な企画の検討や、近隣他園との連携による活動などを視野に入れている。</p> <p>ボランティア等の受け入れや複数の地域ネットワークとの連携にも取り組んでいる</p> <p>ボランティア等の来園に備え、法人共通の受け入れのマニュアルと来園者への説明用の書面が整備されており、過年度には市内の中学校から職場体験生を受け入れている。国分寺市の公私立保育所が参加する合同及びエリア別の園長会議を通じ、行政・制度の動向や各園の情報などの共有に加わるほか、職種別の連絡会での年長児の就学に向けた小学校の連携にも取り組み、要保護児童対策の地域協議会の会議にも出席して虐待や育児に関する情報・課題の共有に参加している。地域の自治会にも加入し、子どもたちの芋掘り行事への参加など、交流も持たれている。</p>		

カテゴリ-3		
3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
サブカテゴリ-1 (3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-3の講評		
保護者の個別の要望・苦情等を把握する仕組みを整備し、対応や解決にあたっている 苦情の受付・解決に関する法人共通の規定や記録様式が整備されるほか、玄関には意見箱が設置され、苦情解決制度については入園時の説明や運動会での第三者委員の紹介などによって保護者への周知が図られている。利用者調査では同制度等について説明を受けたとする回答は有効回答者の6割弱にとどまっており、さらなる認知向上の工夫も期待される。日常の会話や連絡帳で得た要望等を含め、保護者の声は職員間で検討し、意見箱に寄せられた保育室内の環境に関する声に対し、園長名で書面を配付するなど、案件に応じた方法で解決や対応を図っている。		
保護者の全体的な意向把握にも取り組み、改善や保護者との相互理解に活かしている 「フェスティバル(発表会)」「もりんびっく(運動会)」など主な行事の開催後には、書面で感想・要望を把握し、職員間で回覧と課題抽出を行って次年度の企画に引き継いでいる。より効果的に課題を把握するうえで、具体的な質問等の設定や集計・重要意見の抽出などの工夫も検討されたい。また第三者評価機関による利用者調査を毎年実施しており、前年度の調査結果を参考に2階幼児階に衣類等のストック棚を整備するなど、改善にも活かしているほか、保護者会でも書面で質問や話題を事前に募り、議事進行や保護者との意見交換の参考としている。		
保育・福祉に係る政策・制度の動向を随時把握し、必要な情報を職員に伝えている 行政からの随時の発信や市の園長会、関係の各団体の通信物や研修などから、保育・福祉に関する国・自治体の施策や制度の動向などを把握している。情報はファイル管理やメールフォルダの整理などによって効率的な検索と閲覧を図り、近年の職員処遇等に係る制度改革など、必要な情報を会議や資料の供覧によって職員に通達し、入職時の研修では法人理事長から近年の保育制度・業界の動向等が説明されている。今後の地域向け支援の充実を念頭に、身近な未就園世帯の子育ての悩みや期待するイベント等を把握する手段の確立が課題と思われる。		

カテゴリー4		
4 計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリー1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ2(4-2)		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>法人の中・長期的な事業方針を踏まえ、年度の事業計画が作成されている</p> <p>法人が今年度31年度までの5か年の事業計画を策定しており、社会福祉法人制度改革への対応、業務全般の質の向上や職員処遇の改善、施設の開設・修繕のための資金確保、園の保育の理念・方針などへの保護者・地域・社会からの理解獲得などの現状の課題を踏まえ、法人としての主な取組と目標水準、達成時期を定めている。また園としての年間事業計画が別途作成され、年長児の活動・環境をはじめとする保育の充実、法人の事業方針を踏まえた人材確保の諸活動、保護者との連携など年度の重点課題を列挙し、年度末には対応する事業報告も作成している。</p> <p>短期の活動を計画的に実施し、外部の各種事例の収集も適宜行っている</p> <p>行事・訓練や日常の保育など月・日単位の各活動では、所定の書式に計画が立案され、実践と反省から次の計画・企画までのサイクルが確立されている。また主要行事では保護者の意向把握や開催準備の進捗管理など、着実な実行や質の確保が図られている。各種報道や研修等を通じた業界内の先進・失敗事例の把握、下記の系列各園の事故事例等の共有など、外部の情報も適宜参考としている。また法人内の委員会活動を通じ、各園の取組の共有と園長同士の意見・情報交換がなされており、安全衛生面を中心とした自園の改善に活かされている。</p> <p>日常の危険事例の記録・共有や防災・防犯対策など、安全の確保・向上に取り組んでいる</p> <p>保育中のケガやかみつき・ヒヤリハット等の各事例は、受診治療の要否などを基準に各様式に記録され、直後の朝礼等での注意喚起によって再発防止を図ることとなっている。また各園で発生した事例が共通の様式「安全レポート」によって随時発信されており、事務室内での掲示によって同様に啓発されている。毎月の避難訓練によって地震・火災への対応を確認し、想定する発生の時間帯や状況にも多様性を持たせ、実践的な観点での訓練実施に努めるほか、防犯面でも年間計画のもとで対策を図り、嘔吐処理の確認など感染症への対応にも努めている。</p>		

カテゴリー5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(○○●●●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賞金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>必要な人材の確保に向け、法人としての職員の募集・採用等の仕組みが整備されている</p> <p>職員の採用においては、法人の理念「すべての子どもの最善の利益のために」や系列全園で実践する「誉める保育」への共感、各園で展開するチーム制の保育実践に順応できる協調性やコミュニケーション力などを重視し、常勤職員は書類・筆記及び実技試験・面接による選考を基本に法人または関東統括園長が採否及び配属を決定し、非常勤者は各園での採用としている。園内での配置は当人の意向やクラス・組織内の状況を踏まえて決定され、各職員の意向や啓発希望等は定期的に行われる園長との面談などによって把握されることとなっている。</p> <p>園全体の年間の指導・研修の計画を定め、各職員の成長課題を面談によって把握している</p> <p>園内の年間の分野別の指導や内部研鑽について、毎月の行事や訓練の予定と併せて「職員指導計画」に一覧化するほか、園長と各職員との面談によって労働環境面も含めた各人の意向・要望、職員としての目標や成長・啓発希望などを把握し、これをもとに個別の指導や研修への派遣などを行うこととなっている。これら一連の流れと実績を可視化し、継続的に管理するための個別の計画様式等の整備などが課題と思われる。保育課程と指導計画による子どもの育成と同様に、職員にも成長課題に応じた個別の目標・ねらいの設定と計画の作成・実行を検討されたい。</p> <p>多様な研鑽機会の設定や就労環境整備など、個人と組織の能力の向上・発揮を図っている</p> <p>職務分担表が定められるとともに、就業規則において職務上の権限の逸脱・乱用を戒め、必要に応じ上司の判断を仰ぐことを求めている。また園内の各会議を通じ、職員の課題認識や提案に基づいた話し合いがなされるほか、法人内の研鑽機会が多様に設けられ、内外の人材や資源を活用した組織的な保育の質の向上が図られている。理事長表彰制度や経験や年齢によらない柔軟な昇格など、職員の貢献や成長に応じた報酬・評価の取組のほか、退職金・休暇等の各制度や各種費用の負担・補助、懇親イベントの開催など、福利厚生面の整備もなされている。</p>		

カテゴリ7		
7	情報の保護・共有	
サブカテゴリ1(7-1)		
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
カテゴリ7の講評		
<p>各種情報の効率的な利用と漏洩等の防止を図るための仕組みが設けられている</p> <p>書類は事務室内で集中管理し、マイナンバー関連の書類については施錠して保管している。電子データは園内のサーバでの共同利用とともに、各PCへのパスワード設定によって部外者の情報アクセスの排除を図っている。また法人内でもクラウドを活用した情報共有とフォルダ単位でのアクセス権限設定により、職位等に応じた適正な情報利用につなげている。今年度は保護者との連絡や毎日の登降園管理等に活用するシステムウェアを系列各園で順次導入しており、日常の連絡や事務処理等における保護者・園双方の負担軽減と効率化に活かしている。</p> <p>個人情報について、保護者に利用目的その他の事項を入園時に説明している</p> <p>保護者には入園時に個人情報・プライバシーの保護に係る園の取り扱いの指針を説明するとともに、個人情報の利用目的として保育提供から各種事務管理までの用途を記載した法人共通の「個人情報の取り扱いについて」をもとに、記名押印による意思確認を行っている。また法人として「個人情報管理規程」を定め、この中で法令に定める自己情報の開示請求への対応も定めており、園のホームページにもこれを掲載している。昨今の社会情勢等に鑑み、保護者が行事等で私的に撮影した肖像等の取り扱いについても、積極的な啓発を図ることを検討されたい。</p> <p>職員・ボランティア等に対し、個人情報保護の徹底を促すための啓発がなされている</p> <p>職員には入職時の「よき保育者になるために」「職員の心得マニュアル」に基づく教育を通じ、データ・書類の禁帯出やSNS上での機密漏洩禁止など、個人情報保護の徹底を促すとともに、非常勤を含む全職員から誓約書を取得しており、ボランティア等には法人共通の受け入れマニュアルや説明用書面によって機密保持の徹底を求めている。訪問調査時には「受入・受渡連絡票」その他の個人情報記載の各帳票について、保育室や事務室内での取り扱いにさらなる配慮の余地も見られている。利用者調査でも同様の懸念が寄せられており、今後の検討が望まれる。</p>		

カテゴリ-8

8 カテゴリ1～7に関する活動成果

サブカテゴリ1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」
・カテゴリ2:「経営における社会的責任」
・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

理念や目指す保育の実践、安全の向上などに関する組織的な啓発がなされている

職員・フロアの各会議を中心に、子どもへの接遇や法人の理念、保育のすべての基調とする「誉める保育」の徹底等について、園長から随時指導がなされており、子どもの名前呼び方や受容的な対応、誉める際の心得や子どもの模範たる大人としての現場での挙行動作など、さまざまな啓発がなされている。同様に職員同士でも実践を通じた気づきをもとに相互の注意喚起がなされており、組織的な倫理観の向上が図られている。
法人内でも系列園園長を構成員とする「保育の質を向上する委員会」を通じ、安全衛生面の事例や情報の共有と意見交換、法人として共通に目指す保育の徹底の確認など、安全の確保・向上や理念・方針等の浸透と実践に向けた組織的な取り組みが継続的に実施されている。

サブカテゴリ2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

組織的な学びの充実と法人による処遇改善により、職員の資質と意欲が高められている

有識者を招いて分野別に保育の知見を深める法人内研修に加え、提携する法人の支援を得て行う「誉める保育園見学会」や法人内の主任保育士を中心とした「互見会」では、他園の視察と実施後の振り返りによって保育の環境・実践両面の研鑽がなされている。さらに3年目以上の職員を対象としたオペレッタ研修、クラス間で職員の入れ替えを行って各人に自身・自クラスの振り返りなどを促す「えがおの森保育実践」など、園・法人の各レベルで多様な機会を通じた資質向上が図られている。
また外部機関と連携したチームビルディング研修で確認された課題を踏まえ、「フェスティバル」等の行事での各担当の負担の均等化、職員間の相互支援を促すための進捗状況の可視化などに取り組むほか、組織の毎月の目標を定めて各職員の顔写真とともに更衣室に掲示し、職員が頑張る姿に対して、別の職員がその職員の欄にシールを貼って貢献を称える取組を行うなど、業務負担の軽減や現場の意欲向上を図る工夫にも取り組んでいる。
法人においても給与表の改定や国・自治体の制度を踏まえた賃金改善、希望者を対象とした確定拠出年金制度の導入など、処遇面の向上がなされている。

サブカテゴリ3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」
・カテゴリ7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

情報の利用・管理と保育の各面において、さまざまな充実や新規取組がなされている

情報管理面では、各種書類の整理・移動や処分を年度開始時などに行い、必要の際のスムーズな検索と閲覧につなげるほか、保護者との日常の連絡や登陸園管理を行うためのシステムウェアを系列全園で順次導入し、園・保護者双方の事務負担の軽減や各種連絡の円滑化を図っている。
保育においては、上記の「えがおの森保育実践」の実施によって乳児と幼児で保育士を入れ替え、各人が子どもたちの興味や何に向けられているか、どの保育士が折々の場面で何をしようとしているかなどに心を寄せながら保育を実践することで、環境や保育内容・子どもへの関わりを研鑽し合い、知見と保育の質がともに高められるようにしている。また有識者による法人内研修では、環境や絵本、子ども同士の関わりや保護者支援、障害・発達支援など、毎月異なるテーマで保育者としての専門知識を学んでいる。
さらに各年齢で子どもの心身の発達と各期の保育活動の推移を踏まえ、保育室内の環境構成を随時見直すとともに、幼児では保護者との情報共有のために週1回の連絡帳のやり取りを行っている。

サブカテゴリ4(8-4)	
事業所の財政等において向上している	
評価項目1	
財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
財政・収支バランスの最適化に向け、園・法人の各単位でさまざまな取組を行っている 年間及び月次の予算策定・執行は法人本部との連携のもとで行い、園単位では節電・節水や裏紙の活用をはじめとする省資源化の励行、各種日用品・消耗品等の購入・調達の際の在庫や価格・購入方法の検討など、経費の抑制と職員のコスト意識の啓発を行っている。また法人においても複数園運営のスケールメリットを活かした各種調達の際の価格交渉など、経済性と質の維持の両立に配慮がなされている。	
サブカテゴリ5(8-5)	
前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
さまざまな保護者の声を、運営や保育・行事の改善に反映させている さまざまな機会や窓口を通じて寄せられた保護者の声を活かし、運営や保育・行事の改善に取り組んでいる。 前年度の利用者調査での保護者の意見も踏まえ、2階幼児階に衣類等のストック棚を整備したほか、保護者向けの育児講座では、参加が困難な世帯からの要望を受け、開催の日時を従来の土曜朝から平日夕方に変更するなど、具体的な事例も確認できる。 また今年度は第三者委員が交代したこともあり、新任の委員を職員紹介の掲示欄に顔写真とともに掲載している。	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3, 6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>園のホームページやリーフレットを通じて園の特徴などを紹介している 保育理念や5つの目指す子どもの理想像のほか、年齢別の定員・開所時間・延長保育時間などの園の概要、1日のスケジュール、環境作り・異年齢保育・表現遊びや造形遊び・食育などの保育内容が掲載されたリーフレットを用意し、園を訪れた見学者等に渡している。園のホームページ(以下、HP)も用意し、保育理念・保育目標、園が大切にしている子どもの主体性の尊重・異年齢の関わり・奮める保育のほか、園の様子をイメージしやすいように写真を活用した日々の様子を伝えるブログを掲載している。</p> <p>行政や関係団体の各種媒体を通じて園の情報を発信している 市のHPには、市内に所在する保育園の一覧表に各園の定員・0歳児保育開始年齢・開所時間・延長保育時間の情報のほか、園HPにリンクできるようになっている。また区の冊子「保育所等入所案内」には、園の理念等を掲載した園のリーフレットが掲載されている。さらに加盟する複数の関係団体のHPに園の基本情報を掲載して園の紹介がなされるなど、行政や関係団体の各種媒体を通じて園の情報を発信している。</p> <p>見学の受付は柔軟な対応を心がけ、園の特徴等を伝えるほか、不安の解消に努めている 園の見学は、子どもたちの活動や食事の様子がわかる10時30分から行い、電話で予約を受け付けているが、15時頃や土曜日の見学などの希望のほか、突然の来園による見学希望に極力応じられるよう心がけている。園のリーフレットを渡し、園長や副園長が園内を案内しながら、園の保育理念や縦割り保育等の特色、開園時間、延長や土曜保育などについて説明するとともに、質疑応答も行って入園にあたって保護者の不安や疑問の解消に努めている。</p>	

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>保護者に応じた個別・合同の入園説明を行い、面談時に説明への同意を確認している</p> <p>入園決定者向けには、入園にあたっての合同説明会と個別の面談を入園前に行っており、都合が悪い家庭に対しては、個別に対応している。入園説明会では、「入園のしおり」に沿って、保育の基本理念や目標および目指す保育の内容(異年齢保育や保育者の関わり、保育の方法等)のほか、園利用時の依頼事項や保健面について説明をしている。説明に対する不明箇所が残らないように面談時に再確認を行って、説明への同意確認としているほか、「個人情報に関するアンケート」で写真の取り扱いに関する意向を確認している。</p> <p>入園後の支援に向けて入園前の個別面談で保育開始に必要な状況を確認している</p> <p>入園前には「個人調査表」「食事調査票」等の提出書類をもとに個別に面談を行い、入園前の子どもの生活や健康・保健面の状況、家庭状況や保護者の意向など、保育開始に必要な情報の把握に努めている。離乳食や食物アレルギーがある場合は別途栄養士による面談で確認している。面談で把握した情報は提出書類に追記し、書類の種別ごとにファイリングして閲覧できるようにするほか、個別の配慮が必要な特記事項はフロア会議で共有することで園全体での支援につなげている。</p> <p>保護者の就労等に応じた保育時間で受け入れ、利用終了後の関係継続に努めている</p> <p>入園直後の新しい環境に対する子どもストレスへの配慮として保育時間を徐々に延ばしていく「慣らし保育」を行っていたが、保護者の就労に配慮して今年度より10時～15時の5時間保育を行っている。子どもの様子をきめ細かく見ながら、子どもの体調などの様子に応じてすぐに迎えに来られる体制を保護者に協力を依頼したうえで進めている。また、家で使用するタオル等の愛玩品や哺乳瓶の持ち込みを受け入れて子どもが安心して過ごせるように工夫している。卒園等のサービス終了時には、夏祭りや運動会の招待状を送付して関係の継続に努めている。</p>			

サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくうえで、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子ども一人ひとりの情報を把握して、きめの細やかな支援に努めている 入園時の個人面談にて心身状況や生活状況を聴取し、児童票や個人調査票などに明記している。保護者の意向や日々の子どもの様子は連絡帳や送迎の際の保護者との会話で情報を得て、「受け渡しノート」に記入するとともに、子どもの生活や家庭状況の変化も保護者との会話、年1回の個人面談、保育参加でも聴き取り、児童票と個人調査票に追記・修正している。児童票には入園時の提出書類・面談記録や健康記録など子どもに関する情報がすべて綴られており、子どもの育ちの全体像の推移が見えるよう工夫がなされている。		
保育課程のもとで各期間の指導計画を作成し、保育実践に反映させている 法人統一の保育課程に基づき、年間指導計画・月指導計画・週案を作成し、日々の保育日誌に記録する仕組みとしている。月間指導計画では次月の目標や具体的な支援の方法等の計画を立案して実践に活かし、0～2歳児は個別に目標が立てられ、各活動ごとの成果や反省がなされることで個別の支援に活かされている。週案などの計画変更の際には反省・考察の項目に修正内容を記している。年間指導計画の振り返りという点では課題が見られるため、今後は定期的な振り返りを行うことで、次期及び次年度への計画策定に活かされるような工夫を期待したい。		
さまざまな会議等によって職員間での情報や認識の共有化を図っている 毎朝申し送りを行い、子どもの体調や前日の引き継ぎ事項、保護者からの要望などを共有する場とし、職員間で連携を図っている。職員会議は月1回実施されており、子ども一人ひとりの状況やフロアの様子などの共有、行事の検討など議題内容を分けることで、意見交換や検討が深められるようにしている。フロア会議では日々の保育の振り返りを行い、子ども一人ひとりの様子や保護者からの伝達事項や連絡帳からの要望等を伝え合い、ノートへの記録と相互の閲覧によって共有化を図り、個々の適切な対応につなげている。		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	7/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
情報の取り扱いや保育の環境・援助両面で子どものプライバシー等に配慮している 法人の関係規程に個人情報の第三者提供は原則として保護者の同意のもとで行うことを定めるほか、「入園のしおり」にホームページやブログ、写真等子どもの情報を園内外で使用することについて対応を記載し、個人情報の利用目的とともに入園時に説明と意思確認を行っている。また幼児トイレには仕切りを設置し、着替えスペースではロッカーで目隠しをし、着替え方を伝える等の指導を行うなど、子どもの羞恥心の芽生えやプライバシーを考慮し、排せつの失敗等も子どもの気落ちに寄り添って援助するなど、保育においても配慮に努めている。 HPや入園のしおり、マニュアルに人権への配慮事項を示し、その実践に取り組んでいる 本園が目指す保育として、子どもの自主性を尊重した関わりや「誉めること」を大切にすること、活動は一斉に行うのではなく子どものペースで生活し遊び込んでいく保育をすること、そのための保育環境を整えることをHPや園のしおりに記載している。また、入職前の研修で配付される「よき保育者となるために」では、人権への配慮として差別用語の使用禁止等が謳われるほか、マニュアル「森友会の保育について」でも自主性の尊重、誉める、大きな声を出さない、笑顔を絶やさないことを示して目指す保育の実践に取り組んで人権に配慮している。 虐待防止に向けてマニュアルを整え、ケース会議等で理解を深めている 虐待の防止に向けて、虐待の種類、発見のポイント、発見時の対応、保育士の配慮などを示した「虐待対応マニュアル」を整備し、着替えや登園時での視診のほか、保護者の様子や親子の関わり方などに目を配って虐待の早期発見に努めている。疑われる事例を発見した場合には、家庭支援センター・市の保育課・児童相談所に通告するとともに必要に応じて関係機関と連携を図りながら、経過を観察する仕組みを整えている。また、事例をもとにケース会議も行って、虐待について理解が深められるよう取り組んでいる。		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	11/11
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる		○非該当
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている		○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している		○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>系列園共通や園単独のマニュアルを整え、指導や振り返り等で実践での徹底に努めている</p> <p>「よき保育者となるために」「保育マニュアル」や「保健衛生マニュアル」などの法人系列園共通のマニュアルのほか、勤務や保育、森友会の保育などをまとめた園単独のマニュアルを整備し、事務所に常備するほか、職員にも配付している。入職前の法人研修や保健面の手順は看護師からの指導によって周知されている。また、園長が現場で気になった職員の言動等について随時指導が行われるほか、職員自己評価による振り返りによって実践での徹底につなげている。</p> <p>園内の手順や環境設定等は職員の意見等を参考にして見直しを行っている</p> <p>法人共通のマニュアル等は、新任研修前に法人系列園園長が内容を確認し、必要に応じて見直しを行っている。園内の業務手順等の見直しには、日々の保育の提供時や法人系列園の見学時での職員の気づき、困っていることなどさまざま案件を乳児・幼児会議などの各種会議で意見を出し合い、対応策を決定するようにしている。クラス的环境設定は会議を待たず行うことやクラス間の移動時の扉開閉は職員が行うこと、一人ではさみを使える子は離れて見守るなど、職員の意見をもとに環境設定や保育提供の方法などを決めて実践している。</p> <p>安全な保育提供に向けて、点検や各種訓練、職員の資質の維持向上に取り組んでいる</p> <p>安全な保育提供に向けて、毎月1回の安全点検で園庭、砂場、門扉、樹木などについて危険箇所の有無を確認するほか、毎日の業務終了後にも火気など安全確認を行っている。訓練面では、散歩中・予告なし・朝番や延長の時間帯での災害を想定した避難を行っている。年7回行う防犯訓練では、合言葉による避難をする不審者対策だけでなく、アレルギー誤食対応、散歩中での園児の意識喪失などの訓練に加え、職員会議等においてもダイアアップや嘔吐処理の研修を実践形式で行うなど保健衛生面に関わる職員の資質の維持・向上に取り組んでいる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	35/37
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている		評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけができるよう、環境構成を工夫している			○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している			○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			○非該当
評価項目1の講評				
<p>一人ひとりの発達状況を把握し、個々の子どもに応じた支援を行っている</p> <p>日々の子どもの様子は連絡帳のやり取りや送迎時の会話などから把握し、「受け渡しノート」や「フロアファイル」などに記録するほか、個々の発達状況は0～2歳児は毎月、3歳児は2か月ごと、4・5歳児は3か月ごとにチェック式と文章で記し、発達支援に役立てている。個人面談では園での活動状況や家庭での様子を伝え合うことで共有認識を図っており、「個人面談記録簿」に記録している。また年間計画や月案の中に個人への配慮を記載する欄を設けているほか、0・1歳児では個別日誌を記録し、子どもの全体的な姿の把握に努めている。</p> <p>子どもが主体的に活動ができるような環境構成の工夫がある</p> <p>0・1歳児、2歳以上児は年齢の枠を超えて過ごす縦割り保育をもとに、子どもの自立に向けた活動と援助がなされている。各室内は木製の棚やテーブルなどを活用してエリアを区分し、子どもが生活にメリハリとリズムを意識できるよう配慮するほか、発達に応じた玩具や教材・絵本等を子どもの目と手の届く位置に配置し、自ら選び取って遊ぶ自発性の伸長につなげている。言葉への興味や関心・食育・生き物等のさまざまなコーナーを用意し、一人ひとりの子どもが意欲的に活動を行い、豊かに展開ができるような配慮に努めている。</p> <p>配慮が必要な子どもや、子ども同士のトラブル発生時等の対応に取り組んでいる</p> <p>発達などの面で配慮が必要な子どもには、巡回指導も活用して特性や状況を踏まえた支援を図り、職員間で情報を共有しつつ継続的な見守りに取り組んでいる。保護者とは定期的な面談を行い、子どもの発達や関係機関からの支援の方法等の情報共有を行い、発達状況や特性に即した支援につなげている。子ども同士のトラブルが発生した時にはそれぞれの気持ちに配慮し、言葉の発達等に応じて気持ちを受けとめ代弁したり、保育士が適宜仲立ちをするなどして、子ども同士での解決やそれぞれの子どもの心の成長に導いている。</p>				

2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時に子どもの様子を把握する取組と健康的に過ごせるような体調管理に努めている 保護者からの口頭での伝達や連絡帳で子どもの家庭での様子を把握するほか、受け入れ時の視診を保護者とその場で行うなど、子どもの健康状態把握と共有を大切にしている。保護者からの健康面や家庭に関する連絡は「受け入れノート」に記入することでフロア職員全員に伝えることができるようにしている。体調がすぐれない子どもはこまめな検温を行い、急変を防げるよう配慮している。体調に変化が生じた際には保護者に連絡をするとともに、個別に子どもと関わり、子どもが安心してお迎えを待てるような支援を行っている。</p> <p>家庭と連携しながら個々の発達状況や意欲に沿った自立へとつなげている 基本的な生活習慣の自立に向けて、面談や懇談会等を通じ、家庭の意向や発達、子どもの様子を確認してから個別に開始している。トイレトレーニングは排せつ間隔を把握し、トイレに興味をもつなどのサインをとらえながら段階的に進めている。着脱は低年齢児から靴下の脱ぎ履きなどに取り組み、棚等には個人マークを貼って自分のものや場所を確認できるようにしたり、発達に応じてうがい・手洗いなどを行うなど、日々の積み重ねから自然と身につけることができるようにしている。</p> <p>発達に応じた身支度の援助や睡眠・休息の支援を行い、成長を促している 2～5歳児では登園時の身支度を自分で行えるよう、ロッカーの配置やコップ・歯ブラシなどの場所を明確にしている。2歳児も徐々に身支度ができるよう保育者が段階的な見守りを行ったり、5歳児がお世話をしあがる姿なども見られている。長時間を過ごす子どもが身体を休め、リズムを整えられるように午睡時間を設け、SIDS対策として0・1歳児は5分間隔で呼吸・状態チェックを行うほか、うつ伏せになった場合は身体の向きをこまめに変えている。また5歳児は午睡に代えて机上での制作や玩具、飼育物の世話などに取り組み、就学に備えている。</p>		

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

養めることを大切にされた保育を行い、子どもの意欲や自己肯定感の高まりにつなげている

保育目標として「心身の調和的発達」「集団への参加と自主協調の態度」「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎を培う保育」など5項目を掲げ、一人ひとりの子どもが自発的に遊びを楽しみ、友だちや保育者と協力してやり遂げる喜びや、制作や行事等の機会には自分なりに楽しんで表現することで満足感や達成感を感じられるような保育に取り組んでいる。また子どもとのスキンシップに意識的に取り組んだり、養めることを大切に子どもに寄り添い、共感して自己肯定感を高めてゆけるような関わりを行っている。

遊び込める環境を設定し子どもが自ら遊びを選び、満足感を得られるようにしている

「やりたいことがある・やりたいことができる」環境を目指し、子どもの日々の姿から興味・関心を持っていることを予測して、さまざまな教材・教具を用意し、集中して取り組めるようなコーナーを配置している。レイアウトや玩具・教材は子どもの発達や活動に応じ、定期的に変更や追加をしており、職員間で関連に意見を出し合い検討を重ね、必要であれば園長・主任からの助言を受けながら、子どもがより主体性を持って自発的に他者や物事に取り組めるような環境構成を目指している。

子ども主体での戸外活動の取組がさまざまな興味の広がりへとつなげられている

園庭を含む園全体を一つの環境ととらえており、子どもがどこで何を遊ぶのかを子ども自身が選択できるよう、一斉活動は行わずに子どものペースで遊び込めるような関わりを行っている。季節に応じて子どもに経験してもらいたい散歩の行き先を提案し、興味を抱いた子どもが小集団で出かけ、道々や公園では自然物を見たり触れたり、四季折々の事象を感じ自然物を持ち帰り制作に活かしたり、観察をするなど、子どもの好奇心や探究心を促して、さまざまな出会いや発見する楽しさが次の興味への広がりにつながることを大切にしている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>親子での触れ合いを大切にした行事の工夫が行われている 「もりんびっく(運動会)」では日頃の活動から派生した競技を通じ、保護者が子の成長を喜び、子どもが保護者に喜んでもらえるという実感と喜びを知る機会となっており、保護者がゴールで子どもを抱きとめるかけっこでは、日頃から子どもの気持ちを受容する際に、推奨しているハグをする取組とつながっている。また「親子ダンス会」はもりんびっく前に催され、競技のダンスを親子で楽しめるように事前に取り組むなど、当日への気持ちを親子で高め、行事を楽しむ気持ちを親子で共有できるようにしている。</p> <p>子どもが仲間とともに協力をして取り組める行事が展開されている 年間を通して季節に応じた行事や多彩な取組を行っている。行事の計画にあたっては子どもに問いかけ、仲間と相談しながら意欲的に進めてゆけるような関わりを大切にしている。年長児の「お泊まり保育」では、系列園の園児とともに何をしたいかを問いかけたり、キャンプファイアーを楽しんで行えるような内容を子どもと考えたり、食事は子ども同士が役割分担をして作って楽しむなど、親元を離れて仲間とともに協力をしてやり遂げた成功体験が子どもの自立につながるような行事が展開されている。</p> <p>行事実施にあたって保護者の理解を得るとともに、さまざまな人との交流を体験している 年度当初の懇談会にて年間行事についての説明がなされるほか、各行事内容やねらい等について随時お便り等で事前に伝え、理解と協力を得られるようにしている。保護者参加を伴わない行事は、写真掲示をしたりブログに載せるなど保護者に伝える工夫を行い、園での取組内容を保護者に発信し、理解を深めるよう努めている。また夏祭りやもりんびっくでは地域の方々への参加を呼びかけたり、卒園児には手紙を送るなど、園での取組を地域へ発信し、子どもがさまざまな人々とふれ合える機会を設けている。</p>		

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当

評価項目5の講評

長時間にわたる保育のための環境を整備し、家庭的な雰囲気の中で遊べる配慮をしている

園舎は「大きな家」をコンセプトに、内装には木材を積極的に多用し、子どもが長時間を過ごす中で負担を感じないような雰囲気を創出している。また家具等は木製のものを使用し観葉植物を随所に配置し、落ち着いた空間となるような環境整備を心がけている。乳児・幼児室ともに畳のコーナーが設けられ、身体を横たえて遊んだり、保育者の膝の上で絵本の読み聞かせをして時間を過ごすなど、子どもが安心してゆったりと好きな遊びを楽しめるような配慮がなされている。

異年齢での活動を通して年齢相互の育ち合いを促している

0・1歳児、2歳以上児は同じ保育室で過ごし、日常的に異年齢の交流を図っており、同年齢・異年齢での関わりを持てる遊びや生活を通して、成長への憧れや年下への思いやりが育まれるようにしている。また並行した遊びの時間を共有することで、同じようにやってみたいという意欲につながり、身支度や食事の際にも友達や年下児への援助をする気持ちが自然と芽生えるような環境となっている。延長保育の時間帯には乳児・幼児が同じフロアで過ごしながらも仲間同士でゆったりと取り組んだり、日中の遊びの継続ができるような配慮が行われている。

園での様子についてさまざまな工夫をしながら保護者への伝達に努めている

0～2歳児は連絡帳にて家庭での様子を把握するとともに、園での食事・排せつ・睡眠などの生活の様子や活動の状況についての状況を保護者に伝えるなど、家庭と園とで子どもの情報を共有することで連携を取るよう努めている。また子どもの活動の様子を写真とコメント表示をして玄関ホールに掲示をしたり、子どもの制作物を園内随所に展示することで、日中の子どもの取組を保護者に伝えるとともに、親子での会話をつながられるような情報発信の工夫に努めている。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>一人ひとりの子どものペースに合わせて食事を開始し、意欲を促している</p> <p>給食の配膳が始まる頃より、食べたい子から順に活動の片づけを始めて食事準備を行ったり、配膳時には一人ひとりの名前が呼ばれた子どもから取りに行き、配膳者と子どもとの個々の会話でのやり取りから食べられる量を盛り付けるなど、個々のペースを尊重して食事に対する意欲を促し、楽しく食事が摂れるような工夫が行われている。また保育者が一緒に食べることで食具や食器の持ち方の手本を示したり、食事中のマナーや食べ物に対する感謝の気持ちを伝え、食の大切さを教えられるようにしている。</p> <p>安全と健康に配慮しながら、子どもがおいしく楽しく食べられる食事の提供を行っている</p> <p>献立は旬の食材を活用して和洋中の多彩なメニューを考案し、素材本来の味を活かした薄味としている。また世界各国の料理を採り入れたり、行事や季節にちなんだ視覚でも楽しめるメニューを設けるなど、食を通して世界や日本の事象などの興味が深められるような配慮をしている。アレルギー児への給食の提供は、医師の診断書に基づき行い、提供時にはトレイ・皿を専用とし、あらかじめ調理側で盛り付けを行ったうえでラップで覆い、名前と除去内容を記入するなど、安全な提供に努めて誤食・誤配を防いでいる。</p> <p>栽培や調理活動などを通して、子どもたちの食への意欲や関心を培っている</p> <p>テラスでは季節の野菜の栽培を行い、水やりをして徐々に育つ様子を見ながら収穫を心待ちにし、収穫をして食べることで苦手な野菜でも挑戦しようとする意欲につながる姿が見られている。またクッキング活動では作る工程を通して変化を感じ、仲間と協力をしたり異年齢で役割分担をして作り上げ、それぞれが満足した気持ちでおいしさを共有するなど、食を通してさまざまな体験が積み重ねられている。これらの活動はブログや園内掲示を活用して子どもの表情とともに様子を伝え、保護者に個々の子どもの満足した表情を発信している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>ケガ・病気予防に向けて安全等を意識できるよう看護師も連携して指導にあたっている</p> <p>感染症予防に向けて、うがいや手洗いなどを活動の折々で年齢に応じた援助や指導をしている。5歳児では歯の染め出しを行い、3歳後半を目安に看護師が絵本や歯のモデルを活用して歯磨きの指導を開始して、その大切さを子どもたちに伝えるとともに、子どもの意欲につなげられるように歯磨き実施後にシール貼りをしている。また、砂場や縄跳びなどの安全な使い方や散歩時等に交通マナーを守ることなどを、子ども自身で危険行為を意識できるよう伝えている。</p> <p>日々の健康確認や嘱託医による健診等で子どもの健康の維持管理に取り組んでいる</p> <p>日々の子どもの健康状態は登園時の視診、保護者から伝達連絡帳等で把握し、受け入れた職員が「幼児受入ファイル」に記入し、子どもの体調に応じて日々のケアを行っている。毎月の身体測定によって子ども一人ひとりの発達状況を把握するほか、年2回の内科健診(0歳児は毎月)や歯科検診、プール前健診で園医によって定期的に把握し、保護者に結果を報告している。健康面での不安や質問があれば事前に受け付けて園医と相談する体制に加え、保護者は随時の健康や栄養の相談を受けられる体制を整えている。</p> <p>SIDS予防や感染症まん延防止に努め、保護者にも保健に関する情報を提供している</p> <p>園内で感染症に罹った子がでた場合には、クラスごとの発生人数と原因、症状、養生方法などの情報を園内に掲示して、注意を喚起するとともに感染症のまん延予防に向けた協力を依頼している。SIDS対策として園内では0・1歳児を対象にタイマーを使用して5分間隔で呼吸や姿勢などを確認して「SIDSチェック表」に記録している。SIDSや感染症に関する情報は、「園のしおり」やHPに掲載するとともに入園時等で説明している。また、毎月発行される保健便りでは、服装や生活リズム、行事、むし歯などの季節に応じた情報を提供している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>さまざまな工夫で保護者の就労等に配慮しつつ個別事情に応じた配慮にも努めている</p> <p>子どもや保護者の個別事情は入園前や入園後の面談、日々取り交わされる連絡帳やコミュニケーションで把握するよう努め、子どもの病気等の個別事情に応じた配慮に可能な範囲で努めている。就労等への配慮として残業等による急な延長保育利用や土曜保育に柔軟に対応するほか、日程調整しやすいように年間の行事予定を年度当初に配付している。また、運動会やフェスティバル(発表会)などに参加困難な場合は、練習日の見学を可能としているほか、親子ダンス会も当日参加できなかった保護者向けに平日の夕方にミニ親子ダンス会を行っている。</p> <p>公開保育や参観、保護者会で園の取組等について保護者との相互理解につなげている</p> <p>毎月30日に実施する公開保育では、日常の子どもやクラスの様子を見てもらうほか、年1回の保育参観で制作に参加してもらい、誕生会の時に給食を試食してもらうなど、園の保育等を知ってもらう機会としている。年2回保護者会では、1日の流れや表現・制作・着脱などの活動をわかりやすいように写真を付した資料用意するなど、各クラスで取組を伝える資料をもとに説明するほか、事前に収集した保護者からの質問とその回答を添えた資料も配付・説明している。さらに育児講座を別途行うなどして保護者との相互理解が深められるよう取り組んでいる。</p> <p>保護者全体の意向等を踏まえた改善を行い、サービスの向上に取り組んでいる</p> <p>保護者の意見・要望を踏まえた改善でサービスの向上につなげるよう取り組んでいる。行事後のアンケートや毎年度実施する利用者調査、保護者から口頭で寄せられる意見等を参考にして保育や行事の見直しを行っている。今年度保護者から寄せられた意見をもとに、育児講座に参加できない保護者のために平日の夕方開催を検討するほか、保育や乳児クラスのクッキングの様子などを写真も添えて園便りやブログで報告するようしたり、幼児クラスのロッカーを新たに設置するなどの改善がなされている。</p>		

9 評価項目9 地域のニーズに即した子育て支援を実施している		評点(○●●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>安定した運営体制の確立に取り組みつつ、地域の子育て支援にも取り組んでいる</p> <p>開園3年目を迎える本園では、運営体制の確立に向けて取り組んでいるなか地域の子育て支援にも取り組んでおり、見学時での育児相談や夏祭り運動会等の園行事の開放のほか、年2回の育児講座を行っている。HP等で参加を呼び掛けているものの、地域の未就園世帯の利用促進を課題としている。自園の安定した運営体制が整い次第、地域の子育て支援に向けて積極的に取り組む意向とのことであり、今後の活動に向けた利用促進を図る工夫が期待される。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている
タイトル①	一人ひとりの発達や興味・意欲を尊重しながら、子ども主体の保育の充実を目指している	
内容①	一人ひとりの興味や意欲を日々見守り、保育者同士で連携を図りながら個々の発達に即した支援を目指している。登園時には一人ひとりの子どもとのスキンシップに努めたり、子どもの行動や思いに共感して驚めたり拍手を贈ったりするなど、子どもの気持ちの安定やそれぞれの自信につながる関わりを大切にしている。個々の子どもの活動の把握は日々の情報伝達をこまめに行い、フロア会議や職員会議等でそれぞれのエピソードや個別配慮が必要な子への関わり、環境構成などの研鑽をし合い、適切な言葉かけや関わり方についての認識の共有に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している
タイトル②	さまざまな工夫をしながら、経営層による職員指導で基本心得の徹底に取り組んでいる	
内容②	園長が現場巡回時で気づいた言動や接遇などの基本事項や保育実践等は、随時注意するとともに、会議の折々に「保育者の伝達事項を子どもが聞いていることを意識せよ」「言葉かけしないで後ろから抱っこをしない」などを伝え、指導にあたっている。職員個々で行う自己評価「保育の振り返り表」に沿って面談を行い、職員と園長のレベル合わせする予定である。会議での職員の意見創出を促すとともに年度途中に事務室のレイアウトを変更して相談しやすい環境を整えている。このほかにもさまざまな工夫で職員のやる気にもつなげながら指導に注力している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	把握した保護者の意向・要望のほか、保護者の特性などに応じた配慮に取り組んでいる	
内容③	把握した保護者個々の事情に応じた配慮や保護者全体の意向を踏まえた改善がなされるほか、保護者の特性などに応じた配慮をしている。母親の時間も大切にもらえるように、就労だけでなく私用でも土曜保育を受け入れており、職員にもその方針を伝えている。また親子の関わる時間も大切にもらえるよう保護者の出勤時間に合わせた登園時間での受け入れる配慮もしている。幼児クラスでは保護者と子どもの会話につなげられるようノートでの報告は週1回としているが、保護者以外のお迎えをする家庭には連絡ノート通じて報告するようにしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりが自ら遊びを選び、満足感が得る体験の積み重ねを大切に、それぞれが遊び込める環境構成の工夫に努めている
	内容	各保育室は発達や興味に応じた玩具や教材・素材が配置され、子どもが意欲的に遊び込める環境構成を行っている。制作や造形活動・オペレッタ(音楽遊び)では子どもの豊かな創造力と表現力を助長し、子どもが自由に表現する喜びを感じ、仲間とともに遊びを展開し遊びの膨らみにつながるような工夫が行われている。また天気の良い時は園舎内や園庭などの行き来ができ、子どもが遊びたい環境を自ら選択して満足できるまで遊び込める環境の中で、年齢に関わりなく集団での活動の楽しさや仲間意識の芽生えを感じられる活動を提供している。
2	タイトル	組織的な資質向上を図る機会をさまざまに設け、保育に関する知見と技術を園全体で高められるようにしている
	内容	法人・園の各単位で学びの機会が多様に設けられている。斯界の有識者が保育に関する知見を伝える法人内研修に加え、提携する法人の協力を得ての「誉める保育園見学会」や法人内で主任保育士を中心に行う「互見会」では、他園の視察と実施後の省察によって保育の実践・環境などへの理解が深められている。さらに3年以上の職員が映像も交えてリズム表現等を学ぶオペレッタ研修、クラス間で職員の入れ替えを行い、日頃の自身や自クラスの振り返りなどにつなげる「えがおの森保育実践」など、組織的な資質向上に向けた取組が活発になされている。
3	タイトル	乳児・幼児の各「フロア会議」を中心に、職員参画による組織力と保育力の向上が図られている
	内容	乳児・幼児の各「フロア会議」を中心に、現場の気づきの集約による改善・啓発やリーダー層による指導が活発になされている。園長が現場での子どもへの働きかけについて自戒を促したり、保育全般の根底に置くべき「誉める」ことへの意識に関して折々に話し合うなど、保育の質の維持向上に向けた検討の場となるほか、職員間のコミュニケーションや園内の整理整頓、環境設定や子どもへの配慮・目配りなど、現場の気づきがさまざまに語られ、ソフト・ハード両面の改善にもつなげられるなど、職員参画による組織力と保育力の向上が図られている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育課程・指導計画との整合性を意識し、各計画の振り返りを活用することで、さらに保育を充実した内容としてゆくことを期待したい
	内容	保育課程をもとに年・月・週日の各期間の指導計画を策定し、日々の保育展開が行われている。0～2歳児は個別計画を作成し、個々の子どもの姿の把握を行い、発達に見通しを立てている。各会議では計画についてのねらいや子どもの姿、課題点等の共有を行うなど、個々の子どもの情報共有に努めている。園の根幹である保育課程の読み合わせや年間計画の振り返りの視点についてはさらなる工夫の余地も見受けられるため、園内で検討し、一層の保育の充実につなげてゆくことを期待したい。
2	タイトル	園の姿勢や取組を伝えるなどの共通理解形成に取り組み、信頼関係のさらなる向上につなげられることを期待したい
	内容	園の取組や子どもの成長等について保護者との相互理解に向けて、保育参観や保護者会、育児講座などに加え、子どもの活動を伝える掲示物などの情報発信にも取り組んでいる。保護者の個別の要望や全体の意向を踏まえたさまざまな配慮や改善がされているものの、保護者へのフィードバックのほか、保護者の利用できる就労に配慮した取組の周知には検討の余地がうかがえる。改善した成果のほか、園として対応困難事例に対する園の考えを伝えるなど、園の姿勢を示して共通理解の形成を図り、保護者とのさらなる信頼関係の向上につなげられたい。
3	タイトル	園としての課題を中・長期的な観点で明確にし、現場の総意のもとで計画的に行う仕組みの確立にも取り組まれたい
	内容	法人が31年度までの5か年の事業計画を策定し、系列園園長会などで共通理解が図られており、園単位では、保育の質の向上の前提である物的・人的環境の充実などの重点課題を年間事業計画に定めている。クラス担任を固定せずチームで保育を行う中でも、各人に園の諸課題を「自分ごと」として意識させ、能動的に取り組ませる工夫や、継続的な課題である環境美化や「誉める保育」の理解・実践など、組織として注力すべきその他の事柄を含め、課題を中・長期的な観点で明確にし、現場の総意のもとで計画的に行う仕組みの確立にも取り組まれたい。

11

12

13

14